

市区町村社協職員の皆さま 参加申込みにあたり、都道府県・指定都市社協からの推薦をいただいています。参加希望の方は都道府県・指定都市社協にご連絡ください。

# 2019年度 災害ボランティアセンター運営者研修 開催要綱

## 1. 趣 旨

近年、災害発生時には社会福祉協議会が中心となり「災害ボランティアセンター」(以下、災害VC)を設置し、被災者支援を展開することが一般的になっています。昨年度においても、島根県西部地震、大阪府北部地震、平成30年7月(西日本)豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震など全国的に自然災害が多発し、各地で災害VCが設置されました。

災害VCは、これまで積み重ねられた実践を通じて支援や運営が深化する一方、多くの課題も生じています。例えば、さまざまな被災者ニーズへの相談対応力向上の必要性、協働体制による多様な支援ネットワークの広がりとともに一層求められる、住民を主体とした活動構築のあり方、官民・専門領域との連携や広域での支援調整方策、そして災害VCの運営負担の集中とその限界などです。

本研修は、こうした課題意識に立脚し、災害VCの設置運営に関わる方(意思決定者・責任者・担当者・関係者)を対象に、『その課題解決のために必要となる基盤(視点・考え方・方向性・原理原則・理念)』を、参加者相互に学び合うプログラムとなっています(災害VCの設置訓練などを通じた各種マニュアルの策定ノウハウ習得や、個別の災害VC運営に関する技術習得は目的としていません)。

- ・「多様な被災者ニーズをどう捉え、理解するのか」
- ・「そもそも、なぜ災害VCが必要なのか」
- ・「災害VCに求められる機能とは」
- ・「災害VCを通じて被災者支援を行う際に大切にしたい視点や価値観とは」
- ・「災害VC運営に必要な活動資源(人材・資機材・資金など)の調達や開発は」
- ・「連携・協働に必要な平時及び災害時のネットワーク形成の留意点は」

こうした疑問やポイントについて、共に学び合いましょう。

## 2. 主催・協力

主 催：社会福祉法人 全国社会福祉協議会

協 力：災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)

## 3. 日程および会場

日 程：2019(令和元)年10月1日(火)～3日(木)

会 場：タイム24ビル 研修室(東京都江東区青海2-4-32)

最寄駅 ゆりかもめ「テレコムセンター」/りんかい線「東京レポート」

#### 4. 参加対象

- (1) 災害ボランティアセンターの設置・運営に携わることが想定される方  
(市区町村社協及び都道府県・指定都市社協の職員等)
- (2) 災害ボランティアセンターの運営支援や協働体制を模索しているNPO・関係団体の職員

#### 5. 募集人数 200名

- (1) 都道府県・指定都市社協推薦枠（めやす）：150名程度  
※1. 都道府県・指定都市社協ごとの推薦枠や制限はありませんが、別紙「推薦書」の枠数（7名）以上の推薦を希望される際は事務局までご連絡ください。  
  
※2. 市区町村社協、行政、NPO等の中間支援組織、および生協、青年会議所（JC）、企業等、都道府県域や市区町村において災害ボランティア活動推進のネットワークを構成し、災害ボランティアセンターを協働で運営するセクターの関係者に、広く本研修の周知にご協力くださいますようお願い申し上げます。
- (2) その他（めやす）：50名程度（事務局から関係団体等に直接案内予定）

#### 6. 申込方法

- (1) 都道府県・指定都市社協より、別紙「推薦書」を事務局（全社協 全国ボランティア・市民活動振興センター）に提出いただきます。

**都道府県・指定都市社協から事務局への推薦書提出締切  
2019（令和元）年9月13日（金）必着**

- (2) 事務局では、都道府県・指定都市社協から推薦された方の参加可否について、全体での申し込み状況をふまえ調整を行います。
- (3) 調整終了後、事務局より調整結果を都道府県・指定都市社協に連絡いたします。あわせて推薦された方には、事務局から直接参加案内及び申込手続案内をお送りするとともに、事前学習課題等を案内し所定の期日までに提出いただきます。

#### 7. 参加費 12,000円

※ プログラム第1日の情報交換会の費用を含みます。なお、研修期間中の昼食弁当代は別途になります。

#### 8. 研修内容

次頁の研修プログラムをご覧ください。

**なお、本研修は3日間のプログラムをもって1つの研修としていますので、受講される場合は必ず全プログラムにご参加ください。**

## 9. 研修プログラム

### 【第1日：10月1日（火）】

<第1日のポイント>

「総論」として、昨年度の被災地支援の現場でどのような取り組みが行われたかを具体的に学んだ上で、災害時支援の全体像について共通の要素を整理してまとめます。

| 時 間                   | 内 容  |
|-----------------------|--|
| 13:00～13:10<br>(10分)  | ■開会あいさつ・オリエンテーション  |
| 13:10～15:10<br>(120分) | ■シンポジウム「被災地支援の現場から」<br>昨年度の被災地で支援活動の中心となる災害ボランティアセンターの運営者、外部からの支援者の実践から、どのような支援が展開されたのかを学びます。<br><コーディネーター><br>李 仁鉄さん（(特非) にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）<br><シンポジスト><br>西村洋己さん（災害支援ネットワークおかやま世話人／岡山県ボランティア・NPO活動支援センター 副センター長）<br>水野孝昭さん（倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係 主事）<br>大橋俊文さん（倉敷市 企画財政局 企画財政部 企画経営室 主幹） |
| 15:10～15:25<br>(15分)  | 休憩   |
| 15:25～16:00<br>(35分)  | ■基調説明「災害ボランティアセンター運営者研修のねらい」<br><説明><br>小川耕平（全社協 全国ボランティア・市民活動振興センター副部長）   |
| 16:00～18:00<br>(120分) | ■対話・講義「災害時支援の全体像」<br>シンポジウムで学んだ被災地支援の状況をふまえ、発災初期段階から中長期的な視点のなかで、災害支援に求められる機能、支援の目的や原則・課題について学びます。<br><ファシリテーター><br>篠原辰二さん（北海道・(一社) Wellbe Design 理事長）  |
| 18:00～18:15<br>(15分)  | 休憩   |
| 18:15～20:15<br>(120分) | ■情報交換会<br>活動経験の共有・交流を行います。<br><企画・進行><br>全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター   |

## 【第2日：10月2日（水）】

<第2日のポイント>

災害時支援の「各論・応用」として、演習を中心に被災者の多様なニーズを理解するとともに災害VCの機能を整理し、支援に必要なとなるプログラムの策定について学びます。

| 時 間                   | 内 容   |
|-----------------------|---|
| 9：00～9：30<br>(30分)    | ■前日のふりかえり   |
| 9：30～12：00<br>(150分)  | ■演習「被災者ニーズの理解」<br>被災者中心の考え方をふまえ、被災者の抱えるさまざまなニーズに対してどのように理解を進め支援につなげるか、演習を通じて学びます。<br><br><ファシリテーター><br>篠原辰二さん（北海道・（一社）Wellbe Design 理事長）<br>椿原 恵さん（岡山県社協 岡山県くらし復興サポートセンター<br>くらし復興コーディネーター）                       |
| 12：00～13：00<br>(60分)  | 昼食休憩  |
| 13：00～16：00<br>(180分) | ■講義・演習<br>被災者ニーズの理解をふまえ、具体的な支援のプログラムをどのように進めていくか、「拠点」「資源」「協働」の視点から学びます。<br><br><ファシリテーター><br>李 仁鉄さん（（特非）にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）<br>垣貫紀彦さん（（一社）ピースボート災害ボランティアセンター）<br>肥田 浩さん（（一社）OPEN JAPAN 副代表／緊急支援<br>プロジェクトリーダー） |
| 16：00～16：15<br>(15分)  | 休憩  |
| 16：15～18：00<br>(105分) | ■トークセッション「多様な支援のかたち」<br>被災地支援を行う上で求められる多様な支援のかたちについて、講師、アシスタント、参加者による経験を共有します。<br><br><ファシリテーター><br>高山弘毅さん（群馬県・榛東村社会福祉協議会 係長）   |

**【第3日：10月3日（木）】**

＜第3日のポイント＞

分科会を通じて、災害VCの運営課題を整理するとともに、平時からの取り組みについて確認します。あわせて研修全体のふりかえりにより学びを深めます。

| 時間                   | 内容   |
|----------------------|--|
| 9：00～9：30<br>(30分)   | <b>■前日のふりかえり</b><br>分科会ごとに分かれて、前日の学びについてふりかえります。   |
| 9：40～11：55<br>(135分) | <b>■分科会</b><br>災害ボランティアセンター運営における課題について、次の3分科会を設けます。<br>参加者は「セッション1」「セッション2」からそれぞれ1つの分科会を選択し、あわせて2つの分科会の内容を学びます。<br><br><b>＜セッション1＞ 9：40～10：40（60分）</b><br><b>分科会①「専門領域・公的な支援との連携」</b><br>(ファシリテーター)<br>篠原辰二さん（北海道・(一社) Wellbe Design 理事長)<br>椿原 恵さん（岡山県社協 岡山県くらし復興サポートセンター<br>くらし復興コーディネーター）<br><br><b>分科会②「災害VC内外のチームビルトと協働」</b><br>(ファシリテーター)<br>高山弘毅さん（群馬県・榛東村社会福祉協議会 係長）<br>垣貫紀彦さん（(一社) ピースボート災害ボランティアセンター）<br><br><b>分科会③「災害VCにおける情報支援（広報、共有、分析）」</b><br>(ファシリテーター)<br>李 仁鉄さん（(特非) にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）<br>上村 貴広さん（災害情報支援ポータル 代表）<br>柴田 哲史さん（(一社) 災害IT支援ネットワーク 代表<br>／サイボウズ株式会社 グローバル開発本部 マネージャー）<br><br><b>＜セッション2＞ 10：55～11：55（60分）</b><br><b>上記①～③分科会を、同様のプログラム内容で再度行います。</b> |
| 12：00～13：00<br>(60分) | 昼食休憩   |

| 時 間                   | 内 容   |
|-----------------------|---|
| 13:00～15:00<br>(120分) | <p><b>■研修全体のふりかえり</b></p> <p>分科会の学びを共有するとともに、本研修を通じた学びの成果を参加者の皆さんがそれぞれの職場・組織にどのように持ち帰り、平時からの取り組みを進めていくかを考えます。</p> <p>&lt;ファシリテーター&gt;</p> <p>李 仁鉄さん ((特非)にいがた災害ボランティアネットワーク理事長)</p> |
| 15:00                 | <b>終了</b>   |

## 10. 本研修の企画・運営支援について（企画委員・アシスタント紹介）

本研修は、これまでの多くの被災地で災害VCの運営支援を行うなどの経験がある方々に、企画委員としてプログラム作成及び当日運営について協力いただいています。

<企画委員>（敬称略）

- ・李 仁鉄（特定非営利活動法人 にいがた災害ボランティアネットワーク理事長）
- ・垣貫 紀彦（東京都・一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター）
- ・篠原 辰二（北海道・一般社団法人 Wellbe Design 理事長）
- ・高山 弘毅（群馬県・榛東村社会福祉協議会 係長）
- ・椿原 恵（岡山県社協 岡山県くらし復興サポートセンターくらし復興コーディネーター）

また、研修講師をサポートするとともに、今後の都道府県域のネットワークづくりなど平時からの体制づくりを参加者ととも考えていただく役割として、これまで過去に研修を受講された次の方々に、本研修のアシスタントをお願いしています。

<アシスタント>（敬称略）

- ・松平 雄平（宮城県社協 みやぎ総合ボランティアセンター主事）
- ・高橋亜弥子（社会福祉法人 世田谷ボランティア協会）
- ・北出真由美（三重県社協 みえ市民活動ボランティアセンター コーディネーター）
- ・江口 奈穂（大阪府社協 ボランティア・市民活動センター 主事）
- ・藤岡 義晃（広島市社会福祉協議会 地域福祉推進課 主事）

## 11. 個人情報の取り扱いについて

本研修について、個人情報保護における取扱契約を「東武トップツアーズ株式会社 東京国際事業部」と交わした上で、同社に申込業務を委託しています。各都道府県・指定都市社協の推薦後、事務局で参加調整の上お送りする「参加・昼食・宿泊申込書」に記載された個人情報は、本研修の運営管理の目的のみ利用いたします。

### 本研修に関するお問い合わせ先

全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター〔千葉・岸本・小川〕  
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル  
電話：03-3581-4656 FAX：03-3581-7858 Eメール：[vc00000@shakyo.or.jp](mailto:vc00000@shakyo.or.jp)